

福南4 急排空気弁からの微小漏水の検知

求める技術：⑧

1 課題を抱える業務の内容

当企業団においては、取水場で取水した河川表流水をポンプ圧送により、導水管を経由して浄水場へ送っています。

当該導水管は口径φ1,000mm、総延長が約12.1kmで、52基の急排空気弁（φ150）を有しています。

原則として常時導水していますが、設備点検等の維持管理に伴い、年に10回程度は数時間の導水停止を行います。その際、管内の圧力変動で急排空気弁のフロートが動き、導水を再開した際に、原水中の砂等が噛み込むことで、急排空気弁からの微小漏水が発生することがあります。



2 課題の詳細

対策として、導水再開後に少し時間をおいて管路巡視を実施していますが、漏水量によっては、道路表面に水が現れるまでにかかなりの時間を要することがあります。

そのため、夜間や休日等に緊急対応する場合があります。

また、管路巡視にもかなりの労力と時間を割かれています。



3 こんな技術を求めています！

急排空気弁からの微小漏水をリアルタイムで検知することができるシステム